

平成 30 年 10 月 1 日

学校関係者評価 報告

九州美容専門学校
校長 加藤 稔子

九州美容専門学校では、平成 26 年度からすべての教育内容や通常の業務について、現状を点検して、さらなる改善・向上を図っていくために、自己点検及びその評価作業に取り組み、平成 30 年 10 月「自己点検・評価報告書」を取りまとめ、本校ホームページ上において公表いたしました。

本年度は、平成 29 年度自己点検・自己評価結果を踏まえた学校活動の状況を説明し、それに対し、各評価委員からのご意見を頂きました。

各委員からの意見は、真摯に受け止め、よりよい教育と学校運営をめざし、教職員一同努力してまいります。今後とも、一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

1. 開催日時 平成 30 年 8 月 6 日 (水) 10:00 ~ 11:00

2. 開催場所 九州美容専門学校 会議室

3. 学校関係者評価委員会委員

学外委員

梶田 攝也	碩台校区	自治会長
竹内 亜沙子	一般社団 国際美容協会	皆伝
西浦 榮一	有限会社 NIFTY	代表
島村 知博	株式会社 ダリア	熊本営業所 所長

学内委員

加藤 稔子	九州美容専門学校	校長
長谷 美佳	九州美容専門学校	教頭

4. 出席者

(学外委員) 梶田 攝也、竹内 亜沙子、西浦 榮一、西岡 樹志

(学内委員) 加藤 稔子、長谷 美佳

5. 委員会次第

- ① 開会あいさつ
- ② 平成 30 年度自己点検状況及び結果の説明について
- ③ 昨年との比較について
- ④ 自己点検に関する応答・意見交換
- ⑤ 閉会挨拶

6. 討議・意見交換について

学校運営や教育活動に関して外部評価委員と意見交換を行い、成果や課題について協議を行った。

項目	意見・助言等
基準 1 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の教育力の低下から躰や社会のマナーやルールが身につけていない学生が大学、専門学校を問わずいる。美容学校は人を相手にする仕事をするプロを養成する学校であるから人間教育の充実を図ってほしい。 ・学校に登校しない学生に対してはこれまでも学校が熱心に生徒指導を行っているが、さらに継続いただきたい。 ・より高い専門性を指導できる人材の確保を充実させていただきたいが、そのためにも教職員の研修について技術は当然ながら、豊かな人間性を持った教職員へと高めてほしい。 ・学校の教育理念・特色などはホームページ等を活用して外に向けた発信を活発に行う必要がある。
基準 2 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価委員会は、多様な意見を取り込むことで学校の質を上げることが期待できることから定期的な開催が必要である。 ・年間の事業計画はP D C Aサイクルにより常に見直し改善を行い、より円滑な運営がなされていることを評価している。 ・学校が企業との連携による学習を進めているが、これは今後の学校作りに必要なことであり、さらに内容の充実を図ってほしい。
基準 3 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・近年若者のコミュニケーションの課題がいわれており、学生に「人の意見を聞くことができる」力の育成も期待する。 ・卒業生の離職を減少するため、産学一体の授業・講義の構築を図る。 ・現役美容師と接し、接客や技術を習得することは仕事に対する意欲付けにもなり重要である。 ・教育課程編成やカリキュラムに従って、円滑な実施が図られている。その成果として資格取得率は全国平均を上回っている。これはホームページ等でしっかりアピールするべきことである ・教職員の研修も充実させているが、よりよい授業の提供には特に力を入れてほしいと考えている。

<p>基準4 就学成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 離職率の減少を図るための行事やセミナーの開催は継続することが大切である。 ・ 資格の取得は最重要課題であり、是非全員合格、全員就職を目指してほしい。 ・ 1年次の1学期に学校生活及び進路の不適応から退学者がある。精神的ケアに重点を置いている。
<p>基準5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職率は100%を目指して学生と企業のマッチングに力を注いでほしい。そのための進路指導計画はとても充実しているので大いに評価できる。 ・ キャリアサポート室を整備し、学生の個別のニーズに応じる支援の充実を図っている。 ・ 経済的支援としては入学時に特待生推薦、指定校推薦等の学費支援制度を設けている。また、一人暮らし応援制度も設けており、学生支援も充実してきた。 ・ 年1回の健康診断、保護者に対する行事や成績等の報告、必要に応じ保護者面談も実施している。 ・ 今後も小回りのきく、決め細かい学生支援を継続することが大切である。
<p>基準6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育設備、教室数の整備は適切である。サロンを想定した相モデル実習は好評である。 ・ 職業意識の高揚を目指すインターンシップの実施は地域の美容室との連携協力により円滑に行えている。 ・ 自然災害による甚大な被害がここ数年日本でも発生している。子どもを預かる学校では特に安全管理が重要である。学校が整備している「緊急避難マニュアル」については職員・生徒への周知は当然であるが、定期的な訓練の実施も必要である。 ・ 「緊急避難マニュアル」は常に実態に応じた内容に不可修正し、機能するマニュアルに改善してほしい。
<p>基準7 学生の受け入れ募集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の確保は経営の円滑化にも重要であり、これまでの方法を継続しながら、新たな方法も工夫してほしい。 ・ 学生の募集要項の作成については、学生の活動の様子や頑張りを多く掲載し、入学希望者が入学後の自分をより明確にイメージできるものに改善することが大切である。これなら自分にもやれそうとか、自分もこうなりたいとか入学後、卒業後の自分と照らし合わせることができるとよい。 ・ 担当者が強い責任感を持って学校訪問をしていることは是非継続してほしい。 ・ 美容師免許取得を目指す求職者のためのキャリアサポートプログラムの導入に向けた申請を計画したり、ダブルライセンスを取得でき

	<p>る理容修得者課程の申請など、時代に即した学生の受け入れを計画しており、学生募集への努力が感じられる。ぜひ、承認されるように努力を続けていただきたい。</p>
基準8 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化に伴い予算計画・収支計画がしっかりしたものになっており、安心している。 ・会計監査も適切であり、明朗潔白に運営できていることがよくわかる。 ・財務がしっかりしていることがよりよい指導内容の提供につながることから、継続維持を期待する。
基準9 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの各種書類や文書等で法令・法規の遵守に問題はないと感じている。 ・これは信用の第一条件であることから、これからも気を抜くことなく実施してほしい。 ・個人情報の取り扱いや管理規定、職員の指導管理、適切な財務等、法や規定の遵守は学校の信頼の裏返しである。是非、慎重にしかも自分に厳しく行ってほしい。 ・このことについては、職員への周知の徹底を図ってほしい。
基準10 社会貢献、地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な行事に参加することは学ぶことも多く、評判がよい。今後も継続に期待する。 ・学生が企画運営する学校祭は地域にも評判がよく、ぜひ継続をしてほしい。「九美の学生はいい」と言われるとうれしくなる。 ・様々な研修に場所を開放することも地域や企業と一体となった学校運営には必要であろう。学校の負担も大きいだろうが継続をしてほしい。 ・老人ホームへのメイクボランティアやネイルボランティアなどの活動を今後も継続していただきたい。 ・近隣清掃活動は、学生の気づきを促し、清掃のみならず心の教育を行える貴重な時間ととらえている。近隣の方への感謝を込めて今後も行って頂きたい。

学校関係者評価を踏まえて次のように実施する。

- ① 自己評価結果についての自次年度事業計画への反映と具体化
- ② 自己評価結果の WEB 公開
- ③ 学校関係者評価を学校運営に反映させる工夫
- ④ 企業等との連携カリキュラムの明文化
- ⑤ 平成 30 年度自己点検自己評価結果をうけて、より一層の努力をする。
- ⑥ 多様な学生の確保を目指す方策を検討し、実現に向けて努力する。